

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立三潁高等学校

【テーマ】 I II **III** IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

柳河特別支援学校持久走大会交流におけるオリンピック・パラリンピック教育

【実施学年、部、講座等】

1・2年生（男女10名）

陸上部1～3年（男女6名） 合計16名

【目的・ねらい】

地域の特別支援学校の持久走大会における交流を通して、障害のある方への理解を深め共生社会に向けた「共生・共存の心」を育む。

【種類】（当てはまるものに○）

・各教科（ ）・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動

○教科以外での取組（部活動、ボランティア）

【実践内容等】

（実施内容）

○持久走大会前の活動

- ・準備体操指導（本校陸上部）
- ・幼児児童生徒の実態に合わせて体操の内容を工夫
- ・補助を必要とする幼児・児童・生徒には、寄り添い補助をして体操を行う
- ・持久走大会運営に関わる補助



準備体操をします。ぼくがやってみるので同じ動きをしてみましょ。難しい時は近くに
いる高校生に声をかけてくださいね。



今度は2人組でやってみます。近くにいる高
校生とペアになってやってみましょ。高校
生は、補助をしてください。

○持久走大会

- ・肢体不自由の児童・生徒の部（声かけや補助をしながらゴールを目指す）



- ・視覚障害の幼児・児童の部（一緒に伴走してゴールを目指す）



（実践上の工夫点、留意点等）

- ・準備運動はラジオ体操等は、幼児児童生徒一人一人の実態に合わせて内容を工夫したり、補助をしたりして行った。
- ・幼児・児童・生徒が競技を行う際は、直接体には触れず選手が力を発揮できるよう併走しながら最後まで声かけ（応援）を行った。

（成果）

アンケート・感想文から

- ・この行事に参加したことで、オリンピック・パラリンピックに対する見方が変わった。
- ・頑張ることの大切さを教えてもらった。また、機会があれば交流させてもらいたい。
- ・この交流を通して、リオデジャネイロのオリンピック・パラリンピックに対して、今までと異なる別の角度から観ることができる力がついた。

上記のことから次のような成果があったと考える。

○関わる中で初めて気づくことが多く、お互いにコミュニケーションをとることの大切さを実感することができた。

○スポーツを支える側の意識に気付くことができた交流であった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 今回の取り組みが一度限りにならず、このオリンピック・パラリンピック教育を機会に学校や各地域で行われているボランティア等に自ら関わっていこうとする態度や意識を身に付けるために、参加体験型の学習を意図的に取り入れる等、体験を伴った実感が必要である。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立三潨高等学校

【テーマ】 ① Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

講話「東京オリンピック・パラリンピックを目指す意義（カヌー競技）」

【実施学年、部、講座等】

1・2学年スポーツ・文化コース79名（男子63名・女子16名）

【目的・ねらい】

2020年の東京オリンピックを目指している本校卒業生の講話や意見交換をとおして、競技者としての努力、苦悩や喜びを知り、カヌー競技（マイナー競技）への理解を高めるとともにオリンピック・パラリンピックへの関心を高め、生徒自身の意識改革に繋げる。

【種類】（当てはまるものに○）

- ・各教科(スポーツ文化講座)・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動
- ・教科以外での取組(部活動、ボランティア)

【実践内容等】

（実施内容）

○本校1・2年スポーツ文化コース生徒79名を対象とし講話及び質疑応答を行った。



カヌー競技の映像視聴



講 話

- ①カヌー競技を理解するために映像を見てイメージを掴む。（ポロ・スラローム・スプリント）
- ②講師本人が出場した世界選手権のレースの様子を見て、大会の様子やルール等を説明。
- ③カヌー競技を始めたきっかけから現在に至るまでの経緯。
- ④オリンピックを目指す意義等の講話。
 - ・オリンピズム・パラリンピズムの7つの価値
 尊敬・卓越・友情・決断・勇気・平等・鼓舞
 - ・自分自身への挑戦、自己成長
 - ・ベストを尽くすこと、目標に向かって全力で取り組むこと

⑤カヌーマシーンを使って体験及び指導



⑥実際にカヌー艇やパドル等を見る、触れてみる。

⑦講師の話を聞き、興味を持ったことや疑問に思ったこと等を質問。



(実践上の工夫点、留意点等)

- ・カヌー競技についての映像を見ながら説明を行うことでカヌー競技のイメージをつかませる。
- ・講師本人が出場した昨年の世界選手権のレースの様子を見せることでトップアスリートの凄さを実感させる。
- ・カヌースプリント競技で使用するカヤック・カナディアンパドルを生徒全員に実際に触れさせ、カヌー競技を身近なものに感じさせる。
- ・カヌーのトレーニングマシーンに数名チャレンジさせ、競技の難しさや楽しさを実感させる。

(成果)

- カヌー競技というマイナー競技における話だったが、本校の卒業生ということで身近に感じ自分(他競技)に置き換えて考える事ができた。(アンケート結果から)
- 本時の目標を9割以上の生徒が達成できた。(アンケート結果から)
- 2020年の東京オリンピックへの関心と自分たちの母校の先輩でもある講師の先生がカヌー競技の代表となって活躍して欲しいという気持ちを高めることができた。(アンケート結果から)

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 今回のオリンピック・パラリンピック教育は我々教師が行うよりも外部講師を活用することで、生徒への刺激が大変大きいと感じられ、その効果は予想以上であった。しかし、この一度限りで終わらず継続してこの教育を計画的に行っていくことが必要だと考える。